

施策番号	2001		
施策名	世界トップレベルの使いやすさをめざした公共交通の再編強化		
概要	市内で運行する交通事業者等の連携によるネットワークを構築し、さらなる鉄道、バスの利便性向上策などを実施するとともに、バリアフリー化の推進、公共交通不便地域や観光シーズンにおける交通対策の強化などを実施する。		
担当局・部室	都市計画局・歩くまち京都推進室	共管局・部室	
上位政策	20 歩くまち		
施策に関係する 主な分野別計画等	「歩くまち・京都」総合交通戦略		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		24年度	25年度	26年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウエイト
1	バリアフリー事業に着手した地区数の割合 (%)	a	a	66.7	79.2	79.2	100.0%	a	1.00
2	-	-	-	-	-	-	-	-	
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
		a	a	客観指標総合評価				a	

2 市民生活実感評価

*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		26年度回答					有効回答者数	評価
		そう思う	どちらかと言う とそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう思わ ない	そう思わ ない		
1	京都での移動には、公共交通が便利である。	145	202	98	49	54	548	b
		26.5%	36.9%	17.9%	8.9%	9.9%		
2	-							-
3	-							-
4	-							-
5	-							-
		市民生活実感調査総合評価						b

3 総合評価(客観指標総合評価＋市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている					
	重み付け	☐ 客観指標	a	☒ 市民の実感	b	
(重み付けの理由) この施策は、市民生活における公共交通に対する満足感を高めることが目的であるので、市民生活実感評価を重視する。						25年度 B
(原因分析) 【客観指標】平成24年3月に策定した「歩くまち・京都」交通バリアフリー全体構想」に基づき、平成25年度に目標としていた3地区全ての重点整備地区で基本構想を策定し、バリアフリー化の更なる推進に向け取組を進めたことから、3年連続a評価と高い評価で安定している。 【市民の実感】バリアフリー化が着実に推進されていること等から、公共交通の利便性について昨年度に引き続きb評価と安定した評価を得ている。						24年度 B

今後の方向性の検討

＜この施策を構成する事務事業＞

	事業名	事業費の状況(千円)		26年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		25年度 決算額	26年度 予算額		
1	リニア中央新幹線の誘致推進	7,397	25,665	良い	総合企画局
2	鉄道軌道安全輸送設備等整備事業費補助	57,062	47,503	良い	都市計画局
3	地方バス路線維持に係る補助金	1,573	1,798	普通	都市計画局
4	京北ふるさとバスの運行補助	55,074	36,403	良い	都市計画局
5	京都未来交通イノベーション研究機構（仮称）の設立及び運営	—	18,995	—	都市計画局
6	関西国際空港全体構想の推進	3,782	1,278	—	都市計画局
7	近畿圏総合交通体系調査	6,444	9,760	—	都市計画局
8	JR奈良線複線化第二期事業	20,440	52,198	—	都市計画局
9	鉄道施設安全対策事業	8,327	6,803	—	都市計画局
10	「歩くまち・京都」総合交通戦略の推進	564,619	750,458	—	都市計画局
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

＜今後の方向性＞

●バリアフリー化を推進し、公共交通の利用を進めるため、平成26年度は新たにＪＲ藤森駅、深草駅、西院駅（阪急・京福）のバリアフリー化整備工事に着手するとともに、桃山地区、阪急嵐山・松尾大社地区、上桂地区において移動等円滑化基本構想を策定する。
●また、交通事業者等との連携による公共交通利便性向上施策、ネットワークの構築等を実施し、京都に住まい、また京都を訪れる全ての人が、安心、安全かつ快適、便利に利用できる公共交通を構築する。

施策名	2001	世界トップレベルの使いやすさをめざした公共交通の再編強化										
指標名	バリアフリー事業に着手した地区数の割合（％）											
担当課	歩くまち京都推進室		連絡先	2 2 2－3 4 8 3								
1 指標の説明 平成14年10月に策定した「京都市交通バリアフリー全体構想」及び平成24年3月に策定した「「歩くまち・京都」交通バリアフリー全体構想」で選定した24の重点整備地区のうち、「移動等円滑化基本構想」の策定に着手した地区の割合												
2 指標の意味 すべての人にやさしい駅として、バリアフリー化される施設整備の進捗状況を示す指標			3 算出方法・出典等 算出方法：「移動等円滑化基本構想」の策定着手地区数÷重点整備地区数×100									
4 数値												
	前回数値 24年度	最新数値 25年度	推移 12.5ポイント増	目標値								
				数値	根拠	達成度						
数値	66.7	79.2		79.2	平成30年度の目標達成のために当該年度に達成すべき数値	100.0%						
	全国順位	中長期目標				備考						
		数値	目標年次	達成度	根拠							
数値		100.0%	30年度	79.2%	重点整備地区(24)のうち、「移動等円滑化基本構想」の策定に着手した地区(24)の割合							
5 評価基準 単年度目標値に対する達成度が a：100%以上 b：75%以上100%未満 c：50%以上75%未満 d：25%以上50%未満 e：25%未満			6 基準説明 単年度目標値に対する達成度が100%以上をaとし、以下25%単位で基準設定した。			7 評価結果						
						<table><tr><td>24</td><td>25</td><td>26</td></tr><tr><td>a</td><td>a</td><td>a</td></tr></table>	24	25	26	a	a	a
24	25	26										
a	a	a										